

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

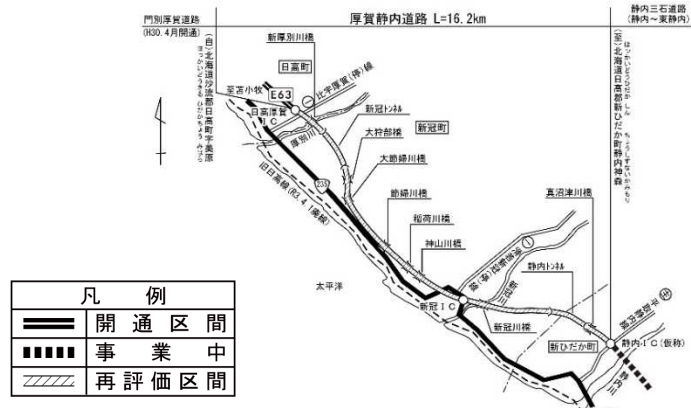
担 当 課: 道路局 国道・技術課

担当課長名: 西川 昌宏

事業名	日高自動車道（一般国道235号） 厚賀静内道路		事業 区分	一般国道		事業 主体	国土交通省 北海道開発局	
起終点	自：北海道沙流郡日高町字美原 至：北海道日高郡新ひだか町静内神森					延長	16. 2km	
事業概要								
日高自動車道は、苫小牧市を起点とし、浦河町に至る高規格道路である。 厚賀静内道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び国際拠点港湾苫小牧港、拠点空港新千歳空港等への物流効率化等の支援を目的とした延長16. 2kmの事業である。								
H7年度事業化			－		H23年度用地補償着手		H23年度工事着手	
全体事業費		約985億円		事業進捗率 (令和7年3月末時点)		約83%		供用済延長 9.1km
計画交通量 10, 000～11, 400台／日								
費用 対 効 果 分 析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 895/8,732億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 1,871/10,770億円		基準年	
	1.2 (0.9)	5.0%(3.7%)	事業費：813/8,015億円 維持管理費：77/ 553億円 更新費：4.8/ 165億円		走行時間短縮便益：1,628/9,272億円 走行経費減少便益：204/1,187億円 交通事故減少便益：40/ 310億円		令和7年	
	(参考) 1.6 (1.5) [2%]							
	1.8 (2.0) [1%]							
	(残事業)	(残事業)	感度分析		(事業全体)		(残事業)	
	2.1 (5.1)	8.9%(18.4%)						
(参考) 3.0 (7.1) [2%]								
3.7 (8.5) [1%]		交通量	B/C=1.1～1.4(±10%)	交通量	B/C=1.8～2.4(±10%)			
		事業費	B/C=1.2～1.2(±10%)	事業費	B/C=1.9～2.3(±10%)			
		事業期間	B/C=1.2～1.2(±20%)	事業期間	B/C=2.0～2.2(±20%)			
事業の効果等								
事業の必要性及び効果								
① 畜産品の流通利便性向上 ・速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、畜産品の流通利便性向上が期待される。								
② 農産品の流通利便性向上 ・物流拠点への速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、農産品の流通利便性向上が期待される。								
③ 緊急輸送ルートの強化による迅速な道路啓開の支援 ・津波浸水想定区域を回避するルートが確保されるなど、災害時の緊急輸送ルートが強化され、迅速な道路啓開の支援が期待される。								
④ 救急搬送の速達性・安定性向上 ・並行する国道235号の信号交差点を回避し、高次医療施設までの所要時間が短縮され、救急搬送の速達性・安定性向上が期待される。								
⑤ 移住・交流人口の拡大による地域活性化 ・速達性の高い道路ネットワークが確保されることで、移住・交流人口が拡大し、地域活性化の支援が期待される。								

関係する地方公共団体等の意見	
地域から頂いた主な意見等： 浦河町など1市11町の首長等で構成される「高規格道路日高自動車道早期建設促進期成会」等より整備促進の要望を受けている。	
知事の意見： 「日高自動車道（一般国道235号）厚賀静内道路」事業を「継続」とした「対応方針（原案）」案について、異議はありません。 当該事業は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び国際拠点港湾苫小牧港、拠点空港新千歳空港等への物流効率化に寄与することから、早期供用をお願いいたします。 なお、事業の実施に当たっては、周辺環境への影響を最小限にとどめるとともに、より一層の徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。	
事業評価監視委員会の意見	
当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成10年 3月 日高自動車道 苫小牧東IC～沼ノ端西IC開通 ・平成10年 7月 日高自動車道 沼ノ端西IC～厚真IC開通 ・平成15年 8月 日高自動車道 厚真IC～鷗川IC開通 ・平成18年 3月 日高自動車道 鷗川IC～日高富川IC開通 ・平成18年 3月 鷗川町、穂別町が合併し、「むかわ町」となる 日高町、門別町が合併し、「日高町」となる 静内町、三石町が合併し、「新ひだか町」となる ・平成20年 8月 苫小牧港 国際コンテナターミナルが東港区へ移転 ・平成22年 3月 新千歳空港 国際線ターミナル運用開始 ・平成23年 4月 苫小牧港 国際拠点港湾に指定（特定重要港湾から名称変更） ・平成24年 3月 日高自動車道 日高富川IC～日高門別IC開通 ・平成27年 9月 様似町 アポイ岳ジオパークが世界ジオパークに認定 ・平成30年 4月 日高自動車道 日高門別IC～日高厚賀IC開通 ・令和 2年 3月 新千歳空港国際線ターミナルビル拡張工事完了 ・令和 2年 7月 白老町 ウポポイ（民族共生象徴空間）開業 ・令和 2年 12月 北海道縦貫自動車道 苫小牧中央IC開通 ・令和 6年 6月 日高山脈襟裳十勝国立公園に指定 ・令和 7年度 日高自動車道 日高厚賀IC～新冠IC 開通予定 	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
平成23年度に工事着手して、用地進捗率約96%、事業進捗率約83%となっている。 (令和7年3月末時点)	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
埋蔵文化財発掘調査の進捗を図り、引き続き、早期開通に向けて事業を進める。	
施設の構造や工法の変更等	
引き続きコスト縮減に取り組んでいく。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	
以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。	

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)

※B/Cの値は、苫小牧東IC～浦河を対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。